

## 鉄道高架事業の進展に合わせ 用途地域を見直す考えは

**問** 鉄道高架事業をはじめとする沼津駅周辺総合整備事業が本格的に動き出したことに伴い、中心市街地において、①用途地域を見直す考えは。②バス路線を再編する考えは。

**答 都市計画部長**／①現在、沼津駅周辺総合整備事業の進展と合わせ、中心市街地をヒト中心の空間へと再編していくために、中心市街地まわりの戦略に基づきまわりの再編を進めている。本戦略では、中心市街地に近接する車両基地跡地について、市役所や広域的な医療施設など、公益施設立地の可能性を検討する

として、今後、土地区画整理事業の進捗や市民ニーズなどを見極めながら、用途地域の変更の必要性を検討していきたい。②本事業により、南北の市街地が一体化されるとともに、都市計画道路や高架側道が整備されることで、中心市街地とその周辺地域は、快適な街路空間で行き来が可能となる。このため、バス路線の再編や新たなモビリティを活用した移動手段の充実を図り、中心市街地と各地域拠点とのネットワークを強化し、市民や来訪者の利便性の向上に努めていく。

井原 三千雄



## 鉄道高架で新たに生まれ変わる 公共空間等のデザインは

**問** 沼津駅周辺総合整備事業により新たに生まれ変わる公共空間等のデザインに対する認識は。

**答 市長**／沼津駅周辺総合整備事業の象徴として整備される沼津駅とその周辺は、単なる鉄道の玄関口ではなく、市民が誇りや愛着を感じ、観光や仕事で訪れた人々にとっても印象に残るよう、沼津らしさを取り入れた特徴的な公共空間にしたいと考えている。そのため、駅舎を含めた駅前広場や高架下の公共空間は、市民や来訪者など多くの人が集い、憩い、安らぎ、交流する拠点として、

利便性とデザイン性を兼ね備えた公共空間となるよう、市民や有識者の意見を踏まえ検討していく。

**問** 市役所業務におけるチャットGPTの活用に対する考えは。

**答 政策推進部長**／現在、チャットGPTを業務で活用する上での有効性や課題等を整理・検証するため実証試験を実施している。今後、その結果を踏まえ、どのような業務での活用が効果的であるかを評価するとともに、継続的に使用する場合は評価結果を庁内で共有し、業務の効率化を図っていく。

小澤 隆



## 排水機場の管理運営体制を 見直す考えは

**問** 六月二日の大雨時の排水機場の不具合を受け、排水機場の管理運営体制を見直す考えは。

**答 建設部長**／現在は、排水機場の近隣住民に操作を依頼することで、災害時における迅速な対応が可能となっている。また、排水機場のポンプが不具合で停止した場合には、専門業者や職員が現地に赴いて手動で稼働させる体制を取っている。今回の排水機場のポンプの停止については、検証結果を公表するとともに、操作員の体制の在り方を調査研究していく。

**問** 防災拠点である市庁舎は洪水時の浸水想定が最大三メートルであるが、非常時の各設備の浸水対策は。

**答 財務部長**／本市では、水道水受水槽・受変電設備を庁舎地下に、非常用発電機を地下及び屋上に設置している。浸水対策として、地下設備の移設や非常用電源稼働のための備蓄燃料の増量を検討しているが、庁舎のスペースや構造等の課題から、いまだ整備に至っていない。引き続き、非常用電源の確保や浸水対策など、発災時の業務継続性の確保に向けた検討を進めていく。

山下 富美子



## 地域貢献型空き家活用事業を 実施する考えは

**問** 子供食堂や障がい者就労施設等を運営する地域貢献団体等と空き家所有者とをマッチングする地域貢献型空き家活用事業を行う考えは。

**答 都市計画部長**／本事業は、空き家の解消と地域の活性化の双方が図られるため、本市においても参考になる事業であると認識している。実施に向けては、地域貢献団体が希望する条件に合う空き家を見つかるためのマッチング制度の構築や不動産仲介業者等との連携が必要となる。今後は官民連携により空き家の新たな活用を調査研究していく。

**問** 本市西部地域の常襲浸水地域における浸水被害軽減のための対策は。

**答 建設部長**／激甚化・頻発化する水災害に備えるため、県と市が主体となり、令和四年十二月に沼川（高橋川）流域治水協議会を立ち上げ、沼川（高橋川）水災害対策プランの策定を進めている。具体的な対策としては、排水機場の増強や井戸川雨水貯留池の整備等を進めるほか、東部前川のしゅんせつを継続的に実施する。また、沼川新放水路の早期完成に向け、今後も国・県に対し強く要望していく。

小泉 宣子

